

はじめに

平成20年1月に発生した中国産冷凍ギョウザの農薬事件は、平成18年5月施行されたポジティブリスト制度後、初めての大きな事件となり、衛生研究所でも多くの市民から検査に関する依頼や問い合わせがあり、残留農薬に関する市民の関心の高さを感じたところです。

衛生研究所が実施する試験検査は、食品の添加物、細菌・ウイルス、河川・海域の水質や家庭用品など多岐にわたり、いずれの検査も市民の安全・安心に直接関係するものがほとんどですが、今回の中国産の食品に関する事件は、検査の迅速性を強く求められたものでした。

近年、健康危機に関する地方衛生研究所の役割が重要視されております。

現在も継続しているアスベストによる健康被害、昨年多発したノロウイルスによる大規模食中毒事件、今後、発生が懸念されている新型インフルエンザなど、緊急に対応する必要がある検査が増加しているのが現状です。

これらの試験検査については、日常から、検査の精度を確保するための機器の管理や分析技術の訓練が必要であるとともに、日々進歩する新たな検査技術の修得もまた重要なこととなります。

このため、各分野への技術研修会参加や高性能分析機器の導入など各研究員の技術力の向上に鋭意努力しております。

一方、衛生研究所を取りまく環境は、研究員の高齢化、人員削減など厳しいものがありますが、今後とも、地方の科学的、技術的な中核機関として、市民の期待に応えられるよう努力してまいりたいと考えております。

このほど、平成19年度に実施しました業務概要と調査研究の成果を、広島市衛生研究所年報第27号として発行しましたのでお届けします。御高覧のうえ御意見いただければ幸いと存じます。

平成20年9月

広島市衛生研究所長 吉岡 嘉暁

沿 革

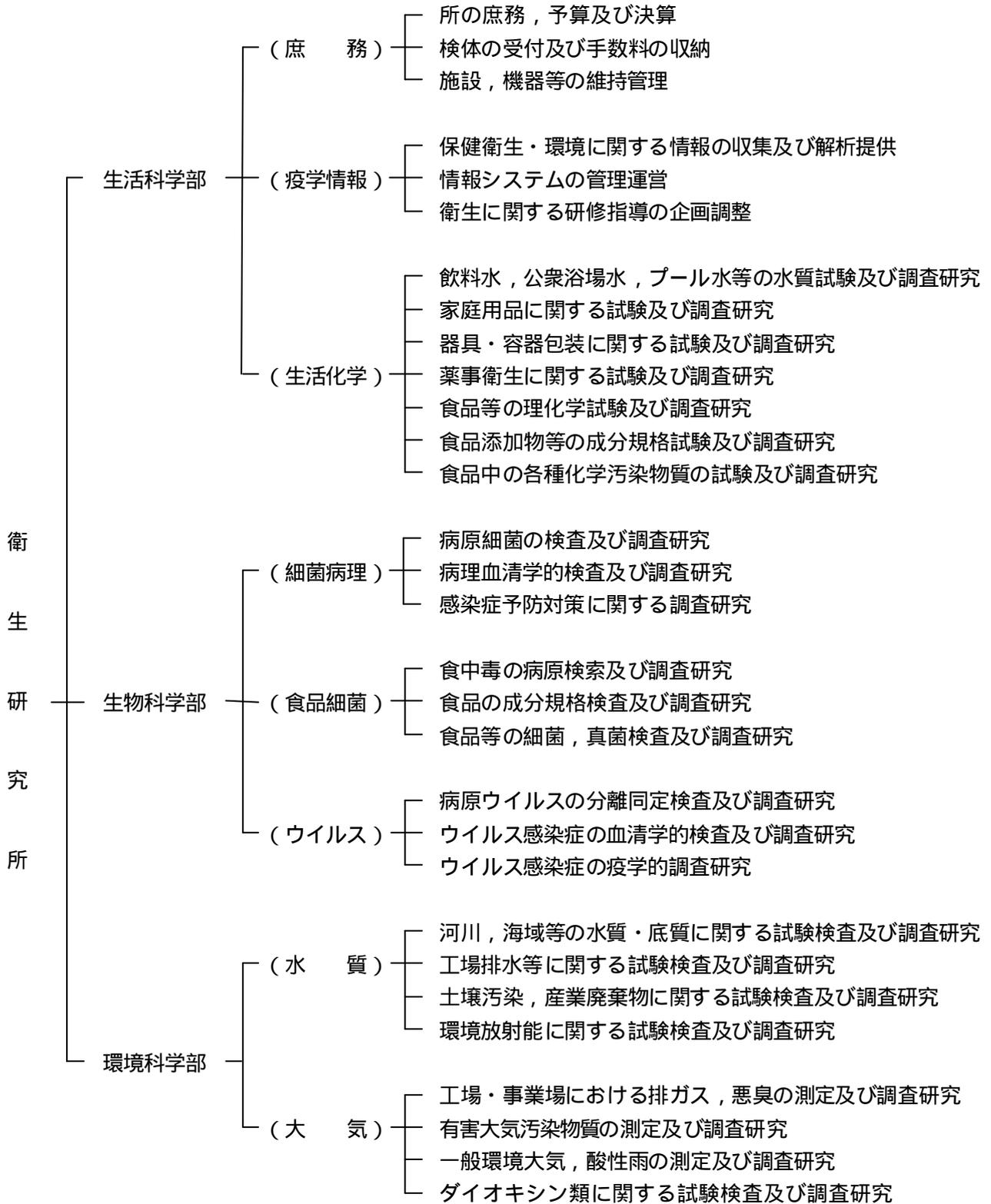
昭和25年7月、当所の前身である衛生試験室が、広島市保健所に設置された。その後、昭和44年4月衛生試験所として独立、昭和46年10月に公害試験所を分離設置し、市民生活の衛生的基盤の確立に努力してきた。

昭和55年政令指定都市昇格を機に、昭和57年4月衛生試験所と公害試験所を統合し衛生研究所を新設した。現在は、庶務・疫学情報・環境衛生・食品化学に関する業務を行う生活科学部、細菌病理・食品細菌・ウイルスに関する業務を行う生物科学部、水質・大気・ダイオキシン類に関する業務を行う環境科学部の3部体制をとり、複雑多様化してきた公衆衛生に係る行政需要に対応している。

年	譜
昭和25年 7月	広島市保健所（昭和28年より東保健所）に衛生試験室を設置。
昭和44年 4月	衛生試験所条例施行により、東保健所の2階の一部に衛生試験所（化学試験係、細菌病理検査係）を設置。
昭和45年 1月	東保健所に増築された3階部分に移転。
昭和46年10月	化学試験係より公害関連業務を分離、環境保全部に公害試験所を新設。
昭和48年 4月	衛生試験所の係制を科制に変更。
昭和50年 7月	衛生試験所に環境科を新設し、化学試験科を食品科に改め、細菌病理科と合わせて3科体制となる。
昭和55年 3月	衛生研究所建設事業計画に基づいて、庁舎の建設に着手。
昭和55年 4月	政令指定都市に昇格。 衛生試験所に食品衛生科を新設し、食品科を食品化学科に、環境科を環境衛生科に改め、細菌病理科と合わせて4科体制となる。 公害試験所は水質科と大気科の2科体制となる。
昭和57年 4月	衛生研究所条例施行により衛生試験所と公害試験所を統合し、西区商工センター四丁目に衛生研究所を設置。 食品環境部、微生物部、公害部の3部体制で発足。
平成 7年 3月	本館内に生物安全実験室(P3)を整備。
平成 9年 4月	食品環境部を生活科学部に、微生物部を生物科学部に、公害部を環境科学部に改める。
平成13年 3月	化学物質安全実験施設を整備。
平成15年 3月	学識経験者等の外部委員による機関評価を実施。

組織機構及び業務内容

1 組織及び業務内容



2 職員配置

(平成20年5月1日現在)

部 門	職 種	事 務 吏 員	技 術 吏 員					計	
			技 師		医 師	薬 劑 師	獣 医 師		臨 床 検 査 技 師
			化学系	農学系					
所 長					1				1
生活科学部	部 長			1					1
	(庶 務)	3							3
	(疫 学 情 報)		3						3
	(生 活 化 学)		7			1			8
生物科学部	部 長			1					1
	(細 菌 病 理)			1			2	1	4
	(食 品 細 菌)		1	1			1	1	4
	(ウ イ ル ス)		1			2	1		4
環境科学部	部 長		1						1
	(水 質)		6						6
	(大 気)		5						5
合 計		3	24	4	1	3	4	2	41

3 職員名簿

(平成20年 5月 1日現在)

所 長	吉岡 嘉暁		
生活科学部			
部 長	後藤 茂	(食品細菌)	
(庶務)		専門員	石村 勝之
主幹(事)主任	原田 巧	主任技師	毛利 好江
主 査	廣本 喜稔	主任技師	花木 陽子
主 事	下前 ころろ	技 師	国井 悦子
(疫学情報)		(ウイルス)	
専門員	片岡 真喜夫	専門員	伊藤 文明
専門員	磯野 裕之	主任技師	阿部 勝彦
技 師	丸山 幹二	主任技師	山本 美和子
		技 師	国寄 勝也
(生活化学)		環境科学部	
専門員(事)主任	末田 義博	部 長	加納 茂
専門員	橋本 和久		
主任技師	常政 典貴	(水質)	
主任技師	長谷川 富子	専門員(事)主任	山本 修
主任技師	松木 司	主任技師	松尾 愛子
主任技師	佐々木 珠生	主任技師	松室 信宏
主任技師	河瀬 志保	主任技師	吉貞 奈穂子
技 師	林 貴寛	技 師	山岡 雄一郎
		技 師	金行 良隆
生物科学部		(大気)	
部 長	笠間 良雄	専門員	國弘 節
(細菌病理)		専門員	光野 幸一
専門員(事)主任	池田 義文	専門員	細末 次郎
主任技師	蔵田 和正	主任技師	中村 和央
技 師	末永 朱美	技 師	下田 喜則
技 師	田中 寛子		

庁舎及び施設概要

1 建物・施設概要

(1) 建設規模

ア	敷地面積		5,575.56 m ²
イ	建築面積	総建築面積	1,529.96 m ²
		総延床面積	4,915.141m ²

ウ 建物概要

本館	鉄筋コンクリート造	地下1階・地上4階建（一部5階）
	建築面積	1,101.86 m ²
	延床面積	4,487.041m ²

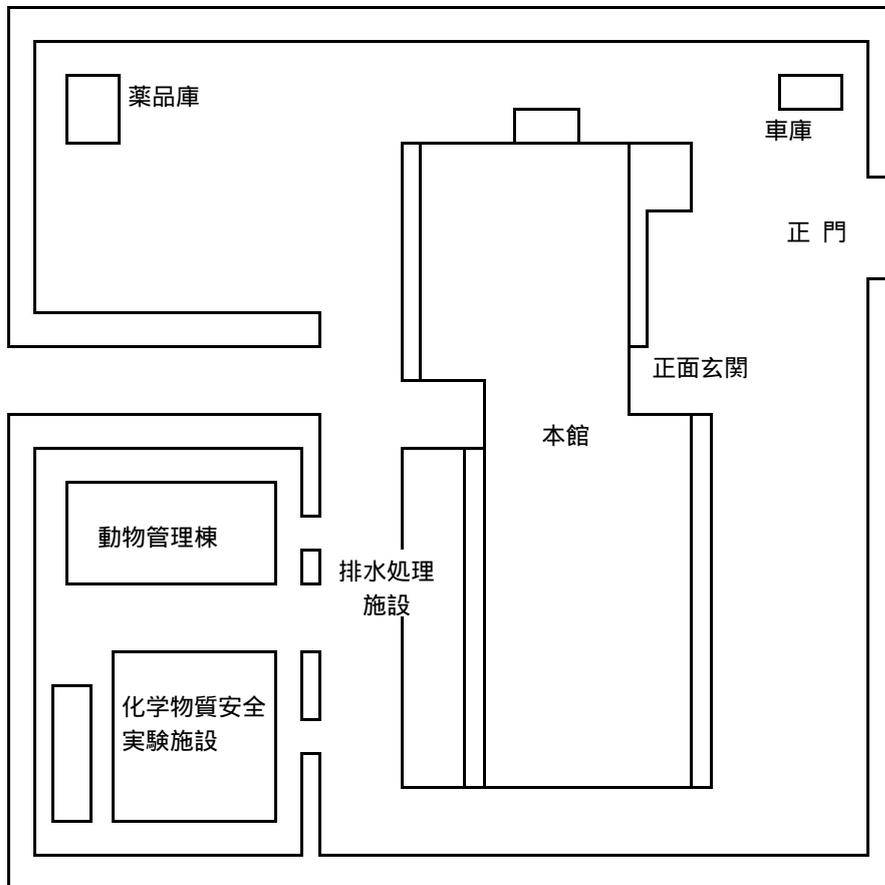
化学物質安全実験施設

	鉄筋コンクリート造平屋建	床面積	204.27m ² （内 倉庫等90.83m ² を含む）
動物管理棟	鉄筋コンクリート造平屋建	床面積	199.83m ²
薬品庫	ブロック造平屋建	床面積	24 m ²

(2) 設備概要

電気設備	非常用発電機	6.6kV	375kVA
排水処理設備	pH調整装置		

2 庁舎配置図



予算概要

1 予算概要

科 目		予 算 額 (当初)	
		平成20年度	平成19年度
歳 入		(千円)	(千円)
使用料及び手数料			
手 数 料			
衛生手数料	保健衛生手数料	5,861	7,403
国庫支出金			
国庫負担金			
衛生費国庫負担金	保健衛生費負担金	456	1,162
市 債			
市 債			
衛生費	保健衛生債	41,400	0
計		47,717	8,565
歳 出			
衛生費			
保健衛生費			
保健衛生総務費	需用費	282	213
	役務費	22	2,153
	使用料及び賃借料	1,991	5,072
	(小計)	(2,295)	(7,438)
環境衛生費	旅費	2,831	3,225
	需用費	48,213	57,249
	役務費	754	807
	委託料	51,633	51,438
	使用料及び賃借料	1,896	1,930
	工事請負費	30,200	0
	備品購入費	29,028	0
	負担金, 補助及び交付金	732	478
	公課費	60	22
	(小計)	(165,347)	(115,149)
計		167,642	122,587

2 平成19年度主要整備機器

品 名	型 式	数 量
質量分析装置（揮発性有機物質測定用）	島津製作所(株) GCMS-QP2010 plus	1
イオンクロマトグラフ装置	日本ダイオネクス(株) ICS-2000	1
顕微鏡観察システム	ニコン TSIF-APH	1

会議・研修等

1 会議

年 月 日	会 議 名	開催地	出席者名
19. 4.10～11	第81回日本感染症学会総会・学術講演会	京都市	末永
4.27	全国環境研協議会第1回理事会	東京都	山本(修)
5.10～11	日本食品衛生学会第93回学術講演会	東京都	吉清
5.17～18	第61回地方衛生研究所全国協議会中国四国支部会議・平成19年度全国環境研協議会中国四国支部会議 (所長部会・庶務部会・理化学部会・微生物部会・水質部会・廃棄物部会・大気部会)	徳島市	吉岡・細末 石村・伊藤 上野・國弘 片岡・尾川
5.23～25	第58回全国水道研究発表会	釧路市	関川
6. 2～ 3	第48回日本臨床ウイルス学会	富山市	山本(美)
6. 7～ 8	第20回におい・かおり環境学会	東京都	中村
6. 7～ 8	平成19年度全国地方衛生研究所長会議・平成19年度地方衛生研究所全国協議会臨時総会	東京都	笠間
6.20～22	第16回環境化学討論会	北九州市	國弘
7. 5～ 6	衛生微生物技術協議会第28回研究会	岡山市	吉岡・石村 阿部
7.11	平成19年度環境測定分析統一精度管理中国・四国支部ブロック会議	広島市	金行・下田
8.22～23	平成19年度指定都市衛生研究所長会議	広島市	吉岡・後藤
8.28	瀬戸内海水環境研会議企画検討会	北九州市	片岡
8.30～31	平成19年度中国地区衛生環境研究所長会議・第53回中国地区公衆衛生学会	岡山市	後藤
8.30～31	日本防菌防黴学会第34回年次大会	吹田市	田坂
9. 5～ 7	第48回大気環境学会年会	岡山市	山本(修)
9. 6	日本マイコトキシン学会第62回学術講演会	神戸市	吉清
9.18～19	第10回日本水環境学会シンポジウム	熊本市	松室
9.19～21	日本分析化学会第56年会	徳島市	光野
9.26～27	第28回日本食品微生物学会学術総会	東京都	蔵田
10.23	第58回地方衛生研究所全国協議会総会	松山市	吉岡

年月日	会議名	開催地	出席者名
10.24~26	第66回日本公衆衛生学会総会	松山市	細末
10.26~27	日本食品衛生学会第94回学術講演会	静岡市	橋本
11.7~8	第34回環境保全・公害防止研究発表会	大分市	金行
11.15~16	第44回全国衛生化学技術協議会年会	津市	佐々木
11.19~22	第18回廃棄物学会研究発表会	つくば市	下田
11.28~29	全国環境研協議会第2回理事会	仙台市	加納
12.10~12	環境ホルモン学会第10回研究発表会	さいたま市	片岡
20.1.31~2.1	第21回公衆衛生情報研究協議会総会・研究会	和光市	後藤・尾川
2.5~2.6	第36回全国環境研協議会総会・平成19年度地方公共団体環境試験研究機関等所長会議	東京都	加納
2.8	第31回瀬戸内海水環境研会議	北九州市	加納
2.19	シンポジウム「食の安全」	横浜市	長谷川
3.6	広島県水道水質検査精度管理担当者意見交換会	広島市	後藤、末田 橋本、細末
3.7~8	第12回腸管出血性大腸菌感染症シンポジウム・第47回感染性腸炎研究会総会	東京都	蔵田
3.19~21	第42回日本水環境学会年会	名古屋市	山岡
3.24~26	第81回日本細菌学会総会	京都市	国寄
3.26~28	日本薬学会第128年会	横浜市	河瀬

2 研修・講習会

年月日	研修・講習会名	研修機関名	参加者
19.4.24~25	食品セミナー・平成19年度食品安全行政講習会	厚生労働省医薬食品局	河瀬
6.4	第4回結核感染診断技術研究会	国立感染症研究所	末永
7.23~24	QFT-2G検査手技完全習得研修	(財)結核予防会結核研究所	毛利
7.25~26	第29回MSセミナー	日本電子データム(株)	佐々木
8.2	食品衛生検査施設信頼性確保部門責任者等研修会	厚生労働省医薬食品局	長谷川
8.9	水道水質検査精度管理に関する研修会	厚生労働省健康局	末田
11.12~30	平成19年度国立保健医療科学院特別課程「細菌コース」	国立保健医療科学院	末永
11.29~12.1	バイオセーフティ技術講習会	バイオテクノロジー研究会	国寄
20.1.15~16	平成19年度化学物質環境実態調査環境科学セミナー	(財)日本環境衛生センター	松室・中村
1.30	放射線取扱主任者定期講習	(財)電子科学研究所	山本(修)
2.7~8	平成19年度国立環境研究所環境情報ネットワーク研究会	国立環境研究所	尾川
2.18~20	最新分析技術研修(GC/MS)	環境省環境調査研修所	吉貞
2.19~20	平成19年度稀少感染症診断技術研修会	厚生労働省健康局	島本
3.13	バリアンFood Safetyセミナー	バリアンテクノロジーズジャパンリミテッド	佐々木

3 所内研修

(1) 内部講師

日 程	名 称	内 容	講師・発表者
19. 5.25	基本行政研修	衛生研究所条例 生活科学部の業務 生物科学部の業務 環境科学部の業務	吉岡 嘉暁 末田 義博 池田 義文 上野 博昭
11. 2	学習ノート勉強会 (1回目)	理化学試験の精度管理 細菌学的検査の精度管理	末田 義博 笠間 良雄
11. 2	信頼性保証セミナー (1回目)	揮発性物質の分析 微生物の精度管理 ダイオキシン類の分析	細末 次郎 伊藤 文明 國弘 節
20. 2.22	学習ノート勉強会 (2回目)	理化学試験の精度管理 細菌学的検査の精度管理	末田 義博 笠間 良雄
2.22	信頼性保証セミナー (2回目)	少量データの統計解析 農薬検査の精度管理 電子顕微鏡の精度管理 広島湾のケイ酸の分析	吉岡 嘉暁 佐々木 珠生 山本 美和子 山岡 雄一郎
3. 7	業績発表会	夏休み体験教室の開催結果 健康食品の医薬品成分検査法の検討 パツリンの分析方法の検討 O157のPFGEパターン変化の有無 O157のMLVA、IS-printing検査 リアルタイムPCRによるEHECのstx遺伝子検出 C. jejuniの血清型別と薬剤耐性 QFT-TB2G法による検査 ノロウイルス定量値に及ぼす内部対照の影響 ヒトメタニューモウイルスの検出状況 アデノウイルス3型のPFGE検査結果 HIV感染症と検査 河川の界面活性剤の残存状況 動画を利用した分析ノウハウの共有化	尾川 健 細末 次郎 吉清 武史 国寄 勝也 末永 朱美 蔵田 和正 田坂 葉子 石村 勝之 阿部 勝彦 山本 美和子 池田 義文 池田 義文 吉貞 奈穂子 下田 喜則
3.28	IT発表会	19年度の調査研究テーマ	-

(2) 外部講師

日 程	名 称	内 容	講 師
19. 3. 7	特別講演	難資源化廃棄物のリサイクルへの取り組み	広島工業大学 環境学部教授 今岡 務

4 研修指導

(1) 技術指導

年月日	指導内容	受講者	人員	担当
19.10.22~24	環境測定技術	タイ王国パトン市職員	1	環境科学部 生活科学部
20.3.5~6	試験検査技術研修会	広島市食品衛生協会会員	4	生物科学部

(2) 講師派遣

年月日	講演会等の名称及び内容	依頼機関	講師名
19.7.26	向洋半島井戸巡り 水質編	ひとまちネットワーク 青崎公民館	関川 恵子
11.13	ノロウイルス感染症・食中毒対策講習会	社会局食品保健課	阿部 勝彦

(3) その他

年月日	名称及び内容	参加者	担当
19.7.29	衛生研究所夏休み体験教室	小学校4~6年生と保護者20組45人	生活科学部 生物科学部 環境科学部

5 施設見学等

(1) 先進地視察

年月日	目的	視察先	参加者
20.1.31~2.1	技術委員会精度管理に関する調査	東京都環境科学研究所 横浜市衛生研究所	國弘, 橋本, 細末

(2) 施設見学

年月日	見学者	人員
20.2.14	学校法人 古沢学園広島製菓専門学校製菓衛生師科学生	25